

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3890700077
法人名	有限会社エンジョイライフ
事業所名	グループホーム 楽生苑
所在地	愛媛県大洲市松尾465番地1
自己評価作成日	平成28年3月1日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成28年3月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

併設している小規模多機能事業所と合同で行事を計画し、職員や外部からの催し物をみていただき、交流を図りながら楽しんでいただけるよう支援しています。 腸内環境を整えるため、毎食のご飯に棒寒天を交えて炊いたものを提供している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

「利用者の食事の様子をご家族に見てもらおう」と、11月に家族会として、いも炊きを計画し、みなで一緒に食事する機会を作った。その際には、これまでの行事時の写真を掲示して、ご家族に自由に持ち帰ってもらえるように工夫した。 昨秋には、ご家族と相談して、職員が付き添いご自宅に戻ってみることを支援した事例がある。テーブルの席順等も工夫しており、利用者同士でおしゃべりする様子がよく見られた。 気分がムラがある利用者には、職員がゆっくりと話を聞く等、かかわる時間を作り支援しており、利用者の表情は良くなり、穏やかに過ごせているようだ。テーブルの上にはお盆の上にお茶の入ったやかんと湯呑みを用意して、いつでもお茶を飲みながら過ごせるようにしている。他の利用者の分も用意してくれる方もいる。カーテンの開閉や手すりの掃除を役割にしている方や車いすの利用者の中には、エプロンやおしぼりたたみを役割にしている方がいる。

・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等がサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目：28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 有限会社エンジョイライフ

(ユニット名) グループホーム 楽生苑

記入者(管理者)

氏名 中田 大輝

評価完了日 28年 3月 1日

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価)	
			笑顔・慈愛・共に楽しく生きるの理念に沿って、職員一同ご利用者の支援に努めている。	
			(外部評価)	
			法人代表者直筆の理念を居間に掲示しており、代表者は、職員会議時に参加して理念について語っている。	事業所が、地域の中でどのようなことを目指して取り組んでいくかということを、具体的に示してはどうだろうか。職員と話し合いながら、理念を実践につなげる仕組みを作ってほしい。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価)	
			地域の行事や奉仕活動に参加して交流を図っている。	
			(外部評価)	
			幼稚園の園児が来て、お遊戯を見せてくれたり、小学生は、授業の一環で訪問してくれる。4月には、法人全体で地域の方等も招き「癒しの森」の行事を行う予定である。居間には大きな窓があり、そこから散歩する人の様子が見える。時には、手を振ってくれて、利用者がそれに応えるようなことがある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価)	
			当事業所が主体となりイベントを開催し、地域の方々に参加していただき、交流を図ることができた。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>運営状況の報告を行い、委員の方々にご助言や質問等いただいている。</p>	<p>グループホームや認知症について知ってもらえるような会議の取り組みにも工夫してほしい。現在は、別室で会議を行っているが、利用者が過ごす居間で行ったり、利用者の参加等も検討してはどうだろうか。より具体的な報告に工夫して、参加者から意見を引き出してほしい。</p>
			<p>(外部評価)</p> <p>併設小規模多機能事業所と合同で会議を行っており、区長、公民館長、民生委員、婦人会、市内他グループホームの方や市の担当者等が参加している。ご家族は代表して一名が参加している。会議時には、利用者の状況や日々の活動、ヒヤリ・ハットや事故報告を行って要望や助言を聞いている。参加者に事業所のことをさらに知ってもらえるように、敬老会や餅つきと同日にして様子をみてもらったことがある。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>医療・介護や地域の情報を知る事ができ、質問に対して適切なアドバイスをいただいている。とても話しやすい。</p>	<p>市に介護相談員の申請を行っているが、訪問までに至っていない。運営推進会議時には、市の担当者から取り組みについての質問や具体的な助言がある。</p>
			<p>(外部評価)</p> <p>市に介護相談員の申請を行っているが、訪問までに至っていない。運営推進会議時には、市の担当者から取り組みについての質問や具体的な助言がある。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>その人らしい生活を大切に職員一人一人が意識しながら、身体拘束しないケアに取り組んでいる。</p>	<p>事業所は2階に位置しており、安全のため現在、居室の窓は三分の一のみ開くようにしている。おむつをおろして掻く行為が見られる利用者について、職員会議時に「ミトンを付けてはどうか」と提案があったが、話し合いによって清潔保持と葉塗布で改善に取り組んだ事例がある。</p>
			<p>(外部評価)</p> <p>事業所は2階に位置しており、安全のため現在、居室の窓は三分の一のみ開くようにしている。おむつをおろして掻く行為が見られる利用者について、職員会議時に「ミトンを付けてはどうか」と提案があったが、話し合いによって清潔保持と葉塗布で改善に取り組んだ事例がある。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 内部研修にて虐待について勉強し、不適切なケアと思った時は、注意していこうと話合った。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 管理者やケアマネージャーは権利擁護に関する研修を受講している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) ケアマネージャー、管理者によってご利用者とご家族にサービス内容を説明し、また質問があれば随時対応しながら納得した上で契約を進めている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) ご利用者・ご家族からの要望があった時は、運営に反映されるよう柔軟に対応している。 直接は言いづらい意見も聞けるように意見箱を設置している。 (外部評価) 「利用者の食事の様子をご家族に見てもらおう」と、11月に家族会として、いも炊きを計画し、みなで一緒に食事する機会を作った。その際には、これまでの行事時の写真を掲示して、ご家族に自由に持ち帰ってもらえるように工夫した。昨年12月に、利用者個々に担当職員を配置し、ご家族とのやりとりを責任を持って行う仕組みを作った。管理者は、今後ご家族への情報発信の一つとして、事業所便りの発行を検討していた。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価)</p> <p>毎月実施している業務カンファレンスで、代表者や管理者が職員の意見や要望を聞き実践につなげている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>職員会議に法人代表者も参加しており、職員は直接要望を出す機会がある。又、管理者は、職員が話しやすいような雰囲気作りを心がけており、職員はその都度、ケア方法等を提案している。管理者は「やってみよう」と言って一緒にケアに取り組んでいる。管理者はその時々課題をテーマにして、内部勉強会を行っている。今後は、職員数を増やす計画がある。さらに、外部研修等にも積極的に参加して、職員のレベルアップに取り組みたいと考えていた。</p>	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価)</p> <p>個々の要望を聞きいれながら就業環境の整備に努めている。しかし、人手不足ということもあり改善点もある。</p>	
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価)</p> <p>内部・外部と研修を行い、サービス向上につながるよう努めている。職員自ら積極的に研修に参加できておらず、今後の課題になる。</p>	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	<p>(自己評価)</p> <p>相互研修、他研修へ参加し同業者との交流や学ぶことで、サービスの質の向上に努めている。 3ヶ月に1度市内の管理者が集まる連絡会を通して、お互いの運営状況や研修テーマについて話し合い情報交換・共有を行っている。</p>	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価)</p> <p>職員が随時寄り添いながら、コミュニケーションを図り本人の要望に答え、安心で安全な生活ができるように努めている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 要望や苦情等に対して親身に聞き入れ対応していくように努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) ケアマネージャー、管理者が事前に調査し、その情報を主にサービスを提供していき、ご利用者の支援に努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) ご利用者一人一人のペースに合わせた生活支援を心掛けて、馴染みのある関係づくりを築いている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 状態の異常時には連絡をしたり、面会時には生活の様子を報告しながら、ご家族と一緒に支援できるように努めている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) ご家族より、馴染みの場所である家へ外出をしたいと要望があった際、職員が付添い支援している。 (外部評価) 昨秋には、ご家族と相談して職員が付き添い、ご自宅に戻ってみることを支援した事例がある。利用者ご家族ともにとでも喜ばれたことから、他利用者についても話し合いながら取り組みたいと考えていた。テーブルの席順等も工夫しており、利用者同士でおしゃべりする様子がよく見られた。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価)	
			1人1人の性格や力を把握し、時には職員が間に入りながらご利用者同士が助け合い、楽しみ長く生活していけるよう支援している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価)	
			入院した際、ご家族と連絡をとったり定期的にお見舞いに行き、状況把握し関係性を大事にしている。	
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価)	
			日々の会話や生活の様子をみながら、ご本人の希望に添ったプランを検討し取り組んでいる。	
			(外部評価)	
職員は、利用者とゆっくりお話する時間を持っており、利用者のこれまでの暮らしぶりをよく知っているが、情報を整理し共有化するための記録を作成する取り組みには至っていない。	さらに、利用者一人ひとりの生活歴や馴染の暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境等の把握や現況、これからの暮らしへの希望等の情報収集に取り組み、アセスメントの充実を図ってほしい。情報を得にくい利用者についても工夫が望まれる。			
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価)	
			以前の担当ケアマネージャーより、情報を収集し経過や状態の把握に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価)	
			ご利用者と積極的にコミュニケーションを図つことで、過ごし方や心身状態の把握に努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>ご本人やご家族の要望を取り入れながら、毎月のケアカンファレンスで課題やケアについて話し合い、その人に合った計画作成に努めている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>計画作成担当者が利用者やご家族から要望等を聞き取って、3ヶ月ごとに介護計画を作成している。支援内容には番号を振り、介護記録内の「ケアプラン記録」欄に「①できた」等と記入してモニタリングを行っている。</p>	<p>今後は利用者個々の担当職員が、利用者やご家族の意見や要望をじっくり聞き取りながら、介護計画案を作成する予定がある。介護計画作成の仕組みを作り、利用者主体の暮らしを支援できるような計画作成に取り組んでほしい。</p>
27		<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>ケアプランにそった記録や、ご利用者の行動や発言等をそのまま個別記録に記入することで、新たな気づきや思いを発見し実践へ活かしている。</p>	
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>地域密着型ということもあり、地域との関わりを大切に一人一人に合ったケアに努めている。</p>	
29		<p>○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>地域資源を把握し活用しながら、その人らしい生活ができるよう支援している。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	(自己評価)	
			<p>定期的にかかりつけ医の往診があったり、毎日FAXでも状態を報告し、情報を共有できる関係を築けている。</p>	
			(外部評価)	
			<p>多くの薬を飲む利用者については、医師にケアでカバーできることを伝えて減薬に取り組むケースがある。便秘の改善について、協力医療機関の看護師からのアドバイスがあり、事業所では炊飯時に棒寒天を入れたり、料理にオリーブオイルを使用する等して成果が出ている。</p>	
31		<p>○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	(自己評価)	
			<p>訪問看護師が来所された際、ご利用者の状態を報告したり助言をいただいたりしている。訪問報告書がFAXで送られてくるので、参考にしてご利用者の体調管理に努めている。</p>	
			(外部評価)	
			<p>多くの薬を飲む利用者については、医師にケアでカバーできることを伝えて減薬に取り組むケースがある。便秘の改善について、協力医療機関の看護師からのアドバイスがあり、事業所では炊飯時に棒寒天を入れたり、料理にオリーブオイルを使用する等して成果が出ている。</p>	
32		<p>○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	(自己評価)	
			<p>入退院時または面会時に情報交換を行い状態の把握に努めている。</p>	
			(外部評価)	
			<p>入退院時または面会時に情報交換を行い状態の把握に努めている。</p>	
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	(自己評価)	
			<p>現段階では職員の力不足や、勤務体制が不十分であり、方針的には看取りの取り組みはしていない。重度化や終末期になる前にご家族とかかりつけ医と相談しながら、今後の方向性を決めている。</p>	
			(外部評価)	
			<p>利用者の中には「ここで最期を」と話す方がいる。ご家族は「ここに入居して安心」と言われる方が多い。現在、事業所から利用者やご家族に終末期の過ごし方について、希望を聞くような機会は作っていないが、90歳を超える利用者も多くおられることから、ご家族と話す機会や利用者の意向を探り、希望に沿った支援ができるような体制を作してほしい。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価)	
			かかりつけ医に連絡して指示を仰ぎ、場合によっては訪問していただいている。応急手当や初期対応の訓練・研修に参加していない職員もあり、今後の課題となる。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価)	
			年に2回消防署立会いのもと、職員、利用者が参加し、火災・地震の避難訓練を実施している。	
			(外部評価)	
			公民館で防災についての説明会が行われた際には、管理者が参加した。法人全体で避難訓練を行っており、昨年9月には夜間想定で、利用者は居室から併設小規模多機能事業所の玄関を通して避難する訓練を行った。今年3月には、地震から火災が起こったことを想定して訓練を実施する予定になっている。	災害はいつ起こるか分からないことでもあり、立地条件や避難経路、備蓄、地域との協力体制等について課題を明らかにして対策を検討してほしい。運営推進会議を活かして取り組みをすすめてほしい。
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価)	
			1人1人の人格や思いを大切に声かけのトーンに気を付けながら敬意をもって対応している。	
			(外部評価)	
			気分がムラがある利用者には、職員がゆっくりと話を聞く等、かかわる時間を作り支援しており、利用者の表情は良くなり、穏やかに過ごせているようだ。テーブルの上にはお盆の上にお茶の入ったやかんと湯呑みを用意して、いつでもお茶を飲みながら過ごせるようにしている。他の利用者の分も用意してくれる方もある。カーテンの開閉や手すりの掃除を役割にしている方や車いすの利用者の中には、エプロンやおしぼりたたみを役割にしている方がいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価)	
			ご利用者とゆっくり話をすることで、関係性を深め、思いや希望を言いやすい環境に努めている。また、自己決定ができるような声かけやかかわりを行っている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価)	
			活動と休息のバランスをとりながら、1人1人のペースに添った支援をしている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価)	
			ご要望に合わせて訪問の理美容院に来ていただき、カットやパーマをしたり、職員が切れる範囲であれば切ったり髪をしばったりしている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価)	
			ご利用者の好き嫌いを聞き出して、できる限り配慮している。毎月2～3回は、事業所で手作り日を設けており、利用者は食材を切ったり、味見や盛り付け等を楽しまされている。	
			(外部評価)	
			1階にある法人の厨房で作った食事が届き、利用者と職員で盛り付けたりして配膳を行っている。職員は、個々に用意したお弁当を利用者と同じテーブルで食べていた。食事を手作りする日には、ホットプレート等を使って利用者がみなの前で料理をしてくれる場面もある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価)	
			テーブルの上に湯呑、お茶が入ったやかんを置き、利用者自身で飲めるようにしている。 摂取量や水分量を把握し、栄養管理に努めている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価)	
			毎食後の口腔ケアの声かけを行い、できる限りご自分で義歯や残歯を磨いていただき、最後に職員が確認している。 困難な方は介助したり、歯間ブラシも利用している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) トイレに行きたい動作を察知したら、誘導したり、早めの声かけで、排泄の失敗やおむつの使用を減らしている。 (外部評価) 拘縮がある方については、立位がしやすいように足をマッサージしてからトイレに行けるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 体操・運動をしたり、朝は乳製品やオリーブオイルを摂取していただいたり、毎食のご飯に棒寒天を交ぜて炊いたり、可能な範囲で予防に取り組んでいる。便秘時は主治医と相談し下剤で調整している。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 本人のその日の体調や希望に合わせて入浴し、会話をしたり、時には歌ったりして、ゆったりと楽しんでいる。1人1人の習慣パターンを理解し支援している。 (外部評価) 一日利用者3名ずつ入浴支援できるよう取り組んでいる。他の方でも入りたいと希望があれば、支援している。現在、午後は活動する時間のため、午前中が入浴時間となっている。入浴を嫌がる方はいないが、誘いを断る方には、日をずらして支援している。普段歌を歌わない方でも、お風呂に入ると歌うようだ。異性の介助を嫌がる方には、同性介助で支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 日々の活動とバランスを図り本人の要望や状態に応じて休息できるよう支援している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 主治医の指示のもと、安全で適切に服用できるよう服薬内容や用量を理解した上で支援状態観察している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 日常生活の中で家事やレク等を通して、1人1人の力に合わせた役割、楽しみができるよう働きかけている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) ご利用者みんなが楽しめるよう行事として花を見に外出支援をしている。ご家族の協力も得ながら外出・外泊の機会もある。	
			(外部評価) ご家族等に手紙を出す方には、郵便局まで切手を買いに出かけられるよう支援している。外出は、月に1~2回計画しており、併設小規模多機能事業所と合同で、お花を見に出かけたり、そうめん流しやドライブに出かけられるよう支援している。	外出がお好きな利用者や希望する方も複数おり、職員を増員して、今後は外出の機会を増やして行きたいと考えている。利用者の馴染みの人や場とのつながりを探り外出先を検討したり、地域の方とのつながり作りに向けても積極的に外出の機会を作ってほしい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 1人1人の思いを大切にご家族の理解・協力も得て、本人の希望でお金を所持したり実際に買い物に行けるように支援している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 本人希望時に家族に電話させていただいたり、その都度対応している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>月に1度、生花をしており、季節の花を飾る事で、季節感や明るい空間作りをしている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>居間は、アコーディオンカーテンで併設小規模多機能事業所とつながっていて、時には開放して行事ごとと一緒に楽しんでいる。事業所は2階に位置しており、直接外に出ることは難しいが、ベランダやウッドデッキのスペースを活用し、プランターで花等を育てたり、春には桜の木のそばでお花見等をしている。調査訪問時には、大きいホワイトボードに「彼岸の入り」と書いて話題にしていた。洗面台に活けた芳香水の香りが広がっていた。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>気の合う利用者同士や合わない方等、随時把握し職員が配慮しながら対応している。</p>	
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>本人や家族の希望に応じて、居心地が良く生活しやすいよう工夫している。 なかには家から家具や私物全てを持参されている方もいる。</p> <p>(外部評価)</p> <p>居室のそうじは職員が行っている。テレビを持ち込んでいる方やご家族来訪時に座る椅子を置いているところもあった。亡きご主人の写真を窓辺に飾っている方もあった。夜間トイレに行くため、職員に手間をとらせてはいけないという利用者の思いから、夜間のみポータブルトイレを使用している方がいる。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>1人1人の力やできることを把握し、自立した安全な環境づくりに努めている。</p>	